

# めぐみ厚生センター恵友会 会報

第 3 1 7 号

めぐみ厚生センター恵友会

法人本部	0952-25-2797
めぐみ園	0952-34-7722
富士学園	0952-63-0107
ウイズ富士	0952-51-0063

発行人 副島 勉

郵便振替 事務局 めぐみ厚生センター恵友会 口座番号： 01770-6-12389  
〒840-2223 佐賀市東与賀町大字飯盛1584 (めぐみ園内) : tel 0952-34-7722



## 『四国瀬戸内の旅』

恵友会 副会長 福島龍一



しまなみ海道を走りたいという思いから、自家用車での旅を思い立ちました。四国瀬戸内コースを車で走るという無謀とも思える旅の記録と記憶です。

仕事終わりの夕方から、まずは尾道を目指して出発です。行程は450キロ程、5時間のドライブです。関門大橋の手前、めかりサービスエリアで食事をして思っていたのですが、いつの間にかレストランは閉鎖されていました。思わぬ誤算を抱えて中国道に。美東サービスエリアで遅めの夕食となりましたが、見蘭牛瓦そばは、ちょっとおすすめの食事でした。

夜間の高速道路はトラックの世界です。道路の上にも、パーキングエリアにも遠距離のトラック、トラックです。中には運転が荒いドライバーもいます。またトラックが連なると、トンネルなどは走るのに気を使います。まあ、そんなこんなで夜の10時過ぎに無事に尾道に到着しました。

尾道は、しまなみ海道への入口。インターチェンジも近く朝の交通渋滞が始まる前に海道に乗りました。瀬戸内海に昇る朝陽に照らされながら、一路今治を目指します。途中で一度だけ島に降りてみました。ただ予備知識なく、また先を急ぐ旅ということでしたが、島の雰囲気だけは感じてきました。最後に渡る、来島海峡大橋は長さもありますが、いよいよ四国という思いが盛り上がってきます。

四国最初の訪問先は、今治城です。藤堂高虎が築城した城は見ごたえのある城です。お堀の水は海水が引き込まれていて、フグやスズキなどの魚も泳いでいます。開城前に着いたのですが、地元の歴史愛好家の方にお城の面白いところの説明を受けたり、ご案内をいただいたりと、思わぬおもてなしを受けました。今治といえばタオルですね。お城の近くの今治タオル本店にも寄りました。

午前中に今治を出て、向かったのは松山です。目指すは松山城。学生時代に初めて訪れて今回で5回目の登城です。リフトやゴンドラで登った先にお城があります。さすがに瀬戸内、もう梅の花が咲いていました。戦火を受けずに現代の手が入っていないお城の階段は急な上に、階高がまばらなので昇り降り気を使います。

松山は、坂の上の雲で脚光を浴びた街です。これを記念したミュージアムも松山城登り口から歩いていける距離にありますので、ここもおすすめ。また、松山といえば夏目漱石の坊ちゃんでも有名な道後温泉もあります。今は改装中で、お風呂には入れますが、休憩することが出来ませんのでご注意ください。松山では、瀬戸内の鯛を使った、鯛しゃぶに舌鼓を打ちました。

翌日は、高松方面を目指します。選んだコースの最初は、琴平・金毘羅さん参り。785段の階段を登りきると、登ったことの満足感とご褒美の景色が出迎えてくれます。中腹にある資生堂パーラー神椿のパフェは絶品ですので、是非お試し下さい。もちろん讃岐名物のうどんはお昼ご飯に頂きました。

ここから再び東に向いて、渦潮の鳴門海峡に向かいました。ちょうど渦潮が発生する時間帯ということで、水中観潮船アクアエディに乗船して、渦潮の真ん中に潮風を切って見学に行きました。間近に見る渦潮の迫力は別格のものがあります。屋島にも行きたかったのですが、時間の問題もあって、後ろ髪を引かれながら高松市に入って、栗林公園散策で二日目のコースが終わりました。高松駅の近くに泊まったホテルからみた、夕陽も朝陽も印象的でした。

最終日は、高松から佐賀に、ただただ高速道路をひた走りするのみですが、瀬戸大橋からの瀬戸内海も見ごたえのある素敵な景色です。全長1400キロの旅。皆様方もお出かけ下さい。





◎新入会

ありがとうございます

〔平成31年2月28日現在〕

(敬称略)

平山 修子  
池田 莉



〓 恵友会について 〓

めぐみ厚生センター恵友会（以下、「恵友会」とは、1981年（昭和56年）に設置され、利用者の方々の心のふれあい活動等を目的とする団体です。会員は、知的障害者を正しく理解し、恵友会の目的に賛同してくださる方から、どなたでもご加入いただけます。現在では、東は関東、南は鹿児島まで全国各地の方々、そして地域住民の方々、利用者の家族、職員が会員となり活動を展開しています。

利用者福祉の進展と地域福祉の周知・促進を行っています。

会の主な活動

- ◎ 総会開催（2年毎）
- ◎ 富士学園・めぐみ園の交歓の夕べ・夏祭り参加
- ◎ 視察研修
- ◎ 会報誌発行（2ヶ月毎）
- ◎ その他、随時協力



めぐみ厚生センター 恵友会

◎会費納入

ありがとうございます

〔平成31年2月28日現在〕

(敬称略)

中島 秀夫・由美子  
平山修子、池田 莉



《恵友会からのお知らせ》

- 年会費は2,000円になっています。今回、同封する用紙に必要事項をご記入の上納入をお願いします。
- インターネットのホームページにも会報を載せていますので、会報発送の必要がない方は事務局までご一報下さい。
- 今月号で会報も317号を迎えました。今後も会の発展と継続のため、会の趣旨に賛同して頂ける方の入会を呼びかけましょう！

平成30年度

九州地区知的障害者福祉協会 種別部会・合同研修会 報告

平成31年2月5日～6日福岡にて、九州地区合同種別部会が開催されました。総勢580名を越える参加があり、今後の福祉の在り方を多方面から考える有意義な大会でした。今回は、その一部ですが抜粋し報告いたします。

『地域共生社会を実現するために』 各部会からの現状と課題

○児童発達支援部会

重度・重複・行動・発達障害に対する支援機能の充実（医療も含む）と、養護児童施設に障害を持つ児童が多数入所しており、支援事業所の専門性を強化し、役割分担を明確にしていく。有資格者による支援の加配及び加算等の設定。また、児童虐待防止策としても社会的養護を担う施設としての位置づけ（児童支援Ⅱ措置制度化）の検討を図る。

○障害者支援部会

九州地区障害者支援施設の看取りに関する実態調査では、利用者の長年の住まいの場であった施設での看取りについて、今後は各施設とも医療機関と連携し家族との話し合いの場を持ち、前向きに検討していくことが望ましいとの報告がある。また、福祉ロボット導入は必須でありAIとの併用で更なる進歩が期待できる。課題は、人とロボットの役割意識を明確に捉えないと支援が違った方向に向かっていくこと。外国人雇用について、様々な課題があるが、「日本人だから良い支援が出来るのか？外国人だから支援が悪くなるのか？」私達自身の差別的な意識の課題も存在する。

○日中活動支援部会

日中活動の評価の見える化についての提案と、重度高齢化による個別対応の実態、また若年層との年齢幅の拡大、意思決定のくみ取りの困難さ。この部会は、数年前から積極的に各施設の日中活動の取り組みの事例を紹介し、自施設以外の活動を知ることとで、「あんなことも出来る」「こんなことをしたい」という各事業所への提案や問題提起にもなっており、今後も「活動の先にある利用者の幸せ」を考えていきたい。

○生産・就労支援部会

2050年日本の人口は1億を切り生産人口も低くなる。そのため、AI、外国人労働に頼らざるを得ない実情がある。その中に障害者の就労も大きく関与し、福祉就労はビジネスとなる。しかし、営利法人による障害者雇用の不適切な解雇等、社会福祉法人として道を間違っている。また、「A型・B型等の就労系事業所におけるサービスの質とは？」利用者個々の評価に基づく報酬の在り方も提案をされていた。

○地域支援・相談支援部会

『そこに何が必要か？』 「地域共生」と「地域包括ケア（自助・互助・共助・公助）」の中で『自助』が叫ばれる今、私達が何をすべきか？地域格差によつて生まれる支援のばらつきも然り、嘆くのではなく、「地域資源の活用」から、「必要な資源を作り出す」。全ては、この新しい発想と展開力を身につけ、「制度ありき」からの脱皮が必要になる。

発想の展開と自分達で作りに出す資源！

チコちゃんに叱られそうです！

「ポーと生きてんじゃないよ！」

日本の障害福祉の変わり時です。